

建築学専攻

I. 志望区分

志望区分	研 究 内 容	担当教員	優先合格者数	志望区分定員
構 造 系				
I-1a	建築構造力学 構造解析学 構造安定論 建築構造最適化	張 景耀	1	2
I-1b	構造形態創生 建築情報学 コンピュータショナルデザイン	林 和希		2
I-2	鉄筋コンクリート構造学 プレストレスト・コンクリート構造学 構造材料学 複合構造学 耐震設計学 耐火設計	谷 昌典	1	3
I-3	鉄骨構造学 合成構造学 高性能材料工学 空間構造計画学 溶接・接合工学	聲高 裕治 稲益 博行	1	5
I-4	建築・都市保全再生 地震工学 災害リスクマネジメント 構造デザイン論 伝統木造	杉野 未奈	1	2
I-5	構造最適設計・逆問題 システム同定 建築動力学 制振構造 耐震設計法 建築地盤工学	荒木 慶一 藤田 皓平	1	5
I-6	建築材料学 耐久設計・維持管理 非破壊・微破壊診断 反応速度論 材料力学	寺本 篤史	1	2
I-7	地震環境工学 地盤震動論 地震ハザード解析 地震荷重論 地盤-建物系非線形応答解析	松島 信一 長嶋 史明	1	4
I-8	建築風工学 耐風構造工学 工学的意思決定論 強風災害軽減	西嶋 一欽	1	3
I-9	鋼構造耐震学 構造振動制御論 極限解析学 建築防災工学 構造ヘルスマニタリング	池田 芳樹 倉田 真宏	1	4
計 画 系				
II-1	建築計画・設計 設計方法・プロセス論 環境行動・心理 医療福祉建築 建築情報学	三浦 研 酒谷 粹将	1	5
II-2	建築史 都市史	富島 義幸 岩本 馨	1	5
II-3	国際建築批評学 現代建築史 現代建築論 建築設計	トーマス ダニエル	1	3
II-4	建築設計学 建築設計 建築形態論	平田 晃久	1	3
II-5	建築生産 建築プロジェクトマネジメント 生産設計 建築経済 建築社会システム 生産管理	金多 隆 西野佐弥香	1	5
II-6	生活空間設計学 建築論	田路 貴浩 猪股 圭佑	1	5
II-7a	居住空間学 都市・地域計画 環境再生・共生	神吉紀世子	1	3
II-7b	住居・住環境計画 居住空間の再編・再生	柳沢 究		2
II-8	人間生活環境学 建築設計 建築構法計画 建築構法技術史	小見山陽介	1	2
II-9	人間環境設計論 環境デザイン 地域建築学 自然災害と人間居住	小林 広英 落合 知帆	1	3
II-10	災害と都市・建築 防災・復興計画論 災害建築・都市のデザイン 危機管理論	牧 紀男	1	3
環 境 系				
III-1	温熱環境制御 建築と設備の省エネルギー 文化財保存	小椋 大輔 伊庭千恵美	1	5
III-2	人間生活環境学 建築光環境 建築照明・色彩 視覚工学	石田泰一郎	1	3
III-3	都市と建築空間の環境調整 建築火災安全工学	原田 和典 仁井 大策	1	5
III-4	音環境 騒音・振動制御 建築音響 環境心理 音とコミュニケーション	大谷 真	1	3
III-5	都市防火 自然災害起因の大規模火災 地震火災 津波火災 都市複合災害リスク評価 広域避難計画 レジリエンス解析	西野 智研	1	2

Ⅱ．志望区分の申告について

- (a) 「Ⅰ．志望区分」を参考に志望区分を申告する。「Ⅰ．志望区分」には志望区分、研究内容、担当教員、優先合格者数、志望区分定員が記載してある。
- (b) インターネット出願システムの志望情報入力画面で、第 1 から第 12 までの順位の志望区分を申告する。合格を希望する志望区分数が 12 に満たない場合には、希望する順位まで申告すればよい。
- (c) 入学後の志望区分の変更は認めない。

Ⅲ．募集人員

建築学専攻 75 名

Ⅳ．入学試験日程

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、変更する可能性がある。

月日(曜)			試験室
8 月 2 日 (土)	9 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0	1 3 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0	C 1 棟 (桂キャンパス)
	計画系科目	設計製図	
	建築計画、都市および地域計画、建築史・都市史、建築論、建築生産、建築設計論、建築意匠	小規模建築の設計：指定された用紙に一般図の製図を行う。	
8 月 3 日 (日)	9 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0	1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0	C 1 棟 (桂キャンパス)
	構造系科目	環境系科目	
	建築構造力学、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、耐震構造、木構造、構造材料、基礎工学	建築環境工学、建築設備システム、建築光・音環境学、建築温熱環境設計、都市環境工学、建築安全設計、建築設備計画法	

8 月 4 日は予備日である。

Ⅴ．入学試験詳細

(1) 配点

科 目	配 点
英語	1 0 0
設計製図	1 0 0
計画系、構造系、環境系科目	6 0 0
合 計	8 0 0

(2) 英語

TOEFL 試験の成績を 100 点満点に換算する。

成績の提出方法その他については、下記の項目(a)を参照のこと。なお、(ii)を提出しなかった場合は、英語の得点は 0 点となる。

(a) TOEFL 成績の提出について

- (i) 2023 年 8 月 1 日以降に実施された TOEFL スコアを有効とする。Test Date scores のみを利用し、MyBest™ scores は利用しない。TOEFL-iBT(Internet-Based Test)のみ受け付ける。自宅受験 TOEFL iBT Home Edition や団体特別受験 TOEFL-ITP などの成績は無効とする。

- (ii) Institutional Score Report が ETS (Educational Testing Service) から京都大学

工学研究科建築学専攻宛に届くようにすること（期限：8月1日（金））。手続の際には、送付先の Institution Code に **B472** を指定し、以下のいずれかの方法をとること。

（Institution Code に B472 が指定されていれば、Department Code は、どの番号が指定されていてもよい。）

- ・ TOEFL 試験申込時又は試験前日の 22 時までに ETS に申請する方法（無料）
- ・ TOEFL 試験日以降に ETS に申請する方法（有料）
- （iii）複数の Institutional Score Report が提出された場合には、それらのうち最高点を英語の点数とする。
- （iv）受験資格により TOEFL を受験することが困難な場合は、事前に C クラスター事務区教務掛（建築系）まで連絡すること。
- （v）TOEFL の Institutional Score Report が指定送付先に到着するまでの期間を確認して、十分に時間的余裕を持って早めに受験することを推奨する。TOEFL 試験の詳細についての問い合わせ先は、以下の通り。

<https://www.toefl-ibt.jp/index.html>

- （vi）Institutional Score Report の到着の有無についての問い合わせには回答しない。

（3）受験で使用を許可する物品

- （a）筆記用具は、黒鉛筆、シャープペンシル、ナイフ、芯削り、鉛筆削り、消しゴムとする。
- （b）製図用具は、黒鉛筆またはシャープペンシル・消しゴム・ナイフ・鉛筆削り・芯削り・コンパス・分度器または角度定規・三角定規・物差しまたは三角スケール・字消し板・テープ（製図用紙貼付用）・製図用刷毛とする。
- （c）製図用具の貸し出しは、原則として行わない。
- （d）設計製図の試験終了後に解答用紙（A3 サイズのトレーシングペーパー）を A1 サイズのケント紙にホッチキス留めするので、ホッチキス（例えば、MAX サクリフラット 32 枚 HD-10FL3 と同等品程度）を持参すること。

（4）受験時の注意事項

- （a）試験は桂キャンパスで行う。詳細は受験票交付時に指示する。
- （b）試験開始後 30 分以上遅刻した者の入室は認めない。また、試験中の途中退室は認めない。
- （c）試験室には必ず受験票を携帯し、係員の指示に従うこと。
- （d）時計（計時機能のみ）の使用は認めるが、アラーム機能は予め切っておくこと。携帯電話等の電子機器類は、なるべく試験室に持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見なされることがあるので注意すること。

（5）合格者決定法

- （a）総得点（800 点満点）が 400 点以上の者を有資格者とする。
- （b）志望区分ごとに優先合格者を決定する。志望区分ごとの優先合格者数は、「Ⅰ．志望区分」に記載してある。選考にあたっては、各志望区分を第 1 順位で志望する有資格者の中で総得点が最も高く、かつ、総得点の有資格者の中で上位 75 番までの者を優先合格者とする。
- （c）優先合格者に選考されなかった有資格者の中から、総得点の高い順に合格者を決定する。この際、志望区分ごとの選考を行う。有資格者が申告した志望区分の合格者数が志望区分定員に達した場合には、下位の志望順位の志望区分が選考の対象となる。
- （d）総得点で同得点者があるときは、計画系、構造系、環境系科目の合計点が高い方を優先させる。計画系、構造系、環境系科目の合計も同点のときは、第 1 志望の志望区分に対応した科目の得

点率の高い方を優先させる。

(6) 留学生（卒業見込みを含む）への注意事項

日本の大学を卒業した留学生（卒業見込みを含む）は本試験を受験することを強く推奨する。その他の留学生は、本試験ではなく2月実施予定の試験を受験することを強く推奨する。ただし、いずれの留学生も出願に先立って、下記の「問合せ先・連絡先」まで必ず詳細を問い合わせること。

また、留学生のうち本学以外を卒業した者または卒業見込みの者においては、出願に先立ち必ず「第一志望の指導教員」に連絡し、受入れについて確認した上で、「第一志望区分申告書」（様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること）を願書提出時に別途 C クラスター事務区教務掛（建築系）へ提出すること。提出期間は 2025 年 5 月 28 日（水）～2025 年 6 月 11 日（水）午後 5 時とする。

VI. 入学後の教育プログラムの選択

入試区分「建築学専攻」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは以下の通りである。いずれのプログラムを履修するかは、合格者の志望と入試成績に応じて審査の後に決定される。詳細については、募集要項 Part A の『XIV. 表 修士課程入学後の教育プログラムと志望専攻』を参照すること。また、教育プログラムの内容については、募集要項 Part A の『X. 修士課程入学後の教育プログラムについて』を参照すること。

○修士課程教育プログラム

・建築学専攻

○大学院博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース）

・デザイン学分野

VII. その他

(1) 研究室説明会

各研究室の研究内容について、学外向けの説明会（対象：京都大学以外の学生・社会人）を開催する予定である。日時場所等の詳細は建築学専攻ホームページに掲載する。

<建築学専攻ホームページ内の入学試験のページ>

<https://www.ar.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admission/exam>

(2) その他

訂正や追加指示などが工学研究科または建築学専攻のホームページに掲載される場合があるので、適宜チェックすること。

<工学研究科ホームページ内の入学試験のページ>

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/graduate/exam1>

<建築学専攻ホームページ内の入学試験のページ>

<https://www.ar.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admission/exam>

問合せ先・連絡先

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛（建築系）

電話 : 075-383-2967

E-mail : kenchiku@adm.t.kyoto-u.ac.jp

参照 <http://www.ar.t.kyoto-u.ac.jp/>